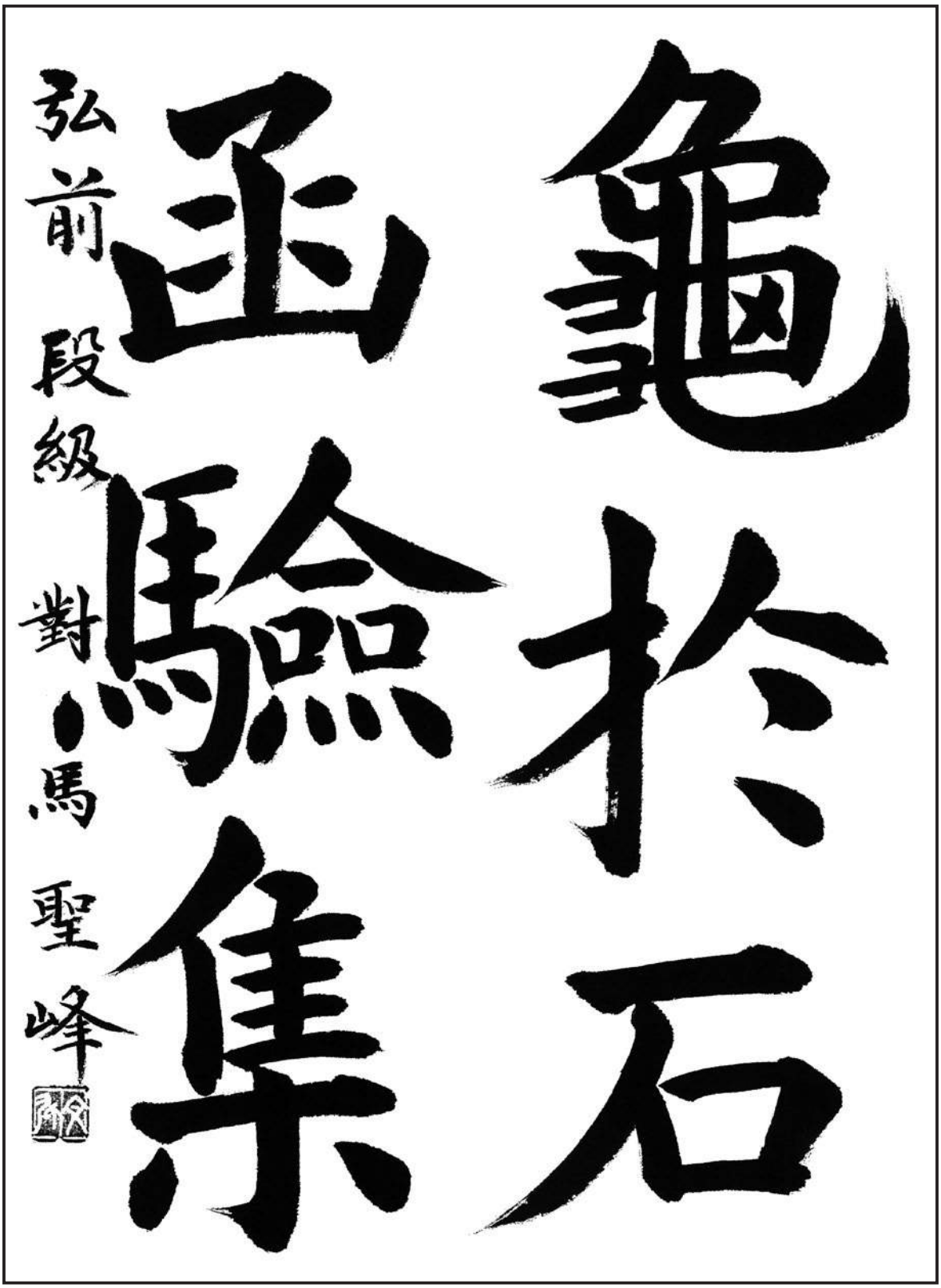
7月号　　楷書臨書課題（漢字半紙部）　對馬聖峰臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

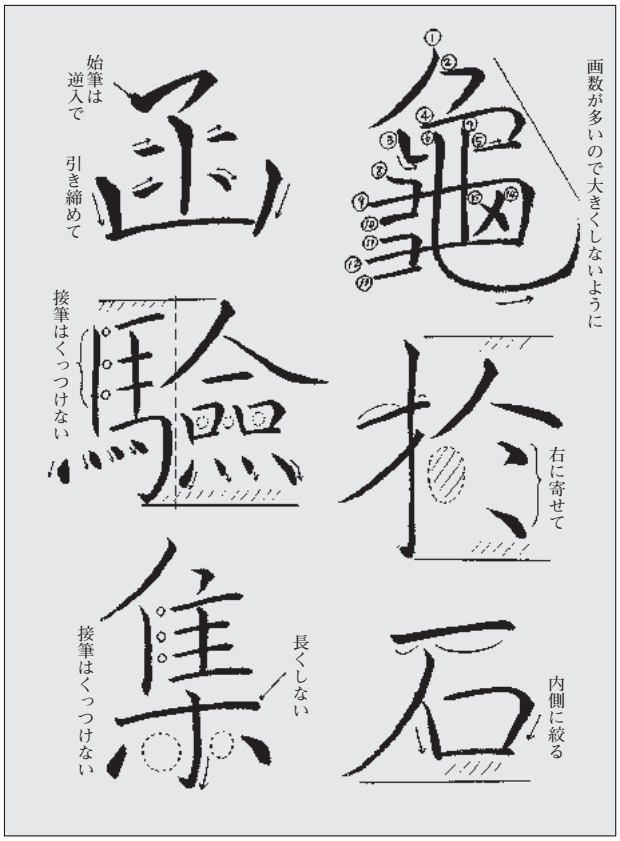
※弘前の部分には支部名を書く



使用筆（花林）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

楷書臨書課題解説

孔子廟堂碑（虞世南）



〔亀〕全体に下部で広がり、安定した形にまとめる。画数が多いので大きくしないよう、余白には特に留意して下さい。

〔於〕偏は、左に長く出し、右側を控える。旁は上下に余白を残す。2つの点は右に寄せて、左の空間を広くとる。

〔石〕1画目の左端に2画目が接し、2画目は方向に注意してのびやかにはらう。口の位置に注意し、内側に絞る。

〔函〕1画目の始筆は逆入で。2画目は直線的に。4つの点の方向と位置に留意し、左右のバランスをとる。凵の縦画は内側へ引き締める。

〔験〕馬は縦長にまとめて左に寄せる。1画目と3本の横画の始筆はくっつけない。旁は上下がずれないよう配置に注意する。

〔集〕全体に縦長にまとめる。2画目と上3本の横画は接しない。木の1画目は長くしない。

原帖

〔亀於石函験集〕（飛）亀を石函に（弁じ）、集（隼を金櫝に）験す。

※験は欠けている為、城武本よりとりました。

7月号　　行書臨書課題（漢字半紙部）　古川暁洲臨

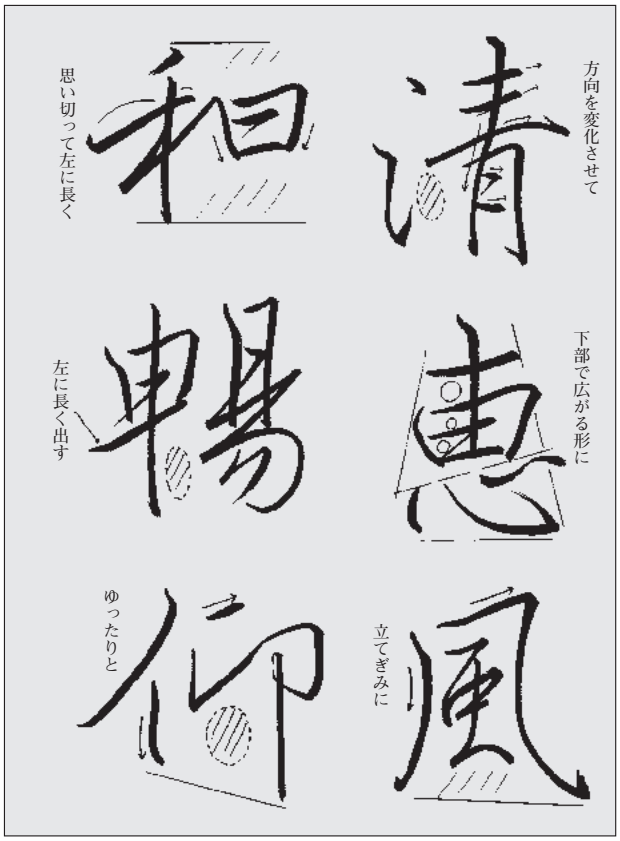
※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆（花林）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

行書臨書課題解説

蘭亭叙（王羲之）



原帖

〔清恵風和暢仰〕〔気〕清み、恵風和暢せり。仰ぎて、

〔清〕 氵は軽快に、偏と旁の間を広くあける。青は横画の長短・太細・入筆の角度の変化。横画三本を書き、縦画は突き抜けて月の1画目縦画とつながる。

〔恵〕 横画は間隔を不等分割に、方向も変化させて。中央縦画は打ち込み強く。心は横広にまとめ、最終画は外側に出す。

〔風〕 1画目は立てぎみに終筆は軽くはねる。2画目は右肩を上げる。虫は縦長に、最終画は省略される。

〔和〕 禾の2画目は打ち込み強く入筆し、左に長く。偏から旁の動きをスムーズに。旁は口ではなく日になっている。

〔暢〕 申は日の下部の組み方に注意し、最終縦画はその右寄りを突き抜ける。昜は上部狭く、下部を広く書く。

〔仰〕 1画目の方向に気を配り、2画目はふくらみをつけて、卬の1画目は左から右へ書く。

7月号　草書臨書課題（漢字半紙部）　對馬聖峰臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆（旭水）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

草書臨書課題解説

真草千字文（智永）

〔設〕 偏の上下に余白を作り、懐を広くとる。旁は回転をリズムよく運筆し、最終画はしだいに筆圧を加える。

〔席〕 肩を基軸にし、大きな懸腕運動で書く。画の交差する部分も多いので、筆の動きをよく観察して、確実な運筆を。

〔鼓〕 士の部分は中鋒で重厚に。偏と旁の間の余白を広くあける。旁は余白に留意し、軽快な動きで、最終画はしだいに筆圧をかけ、抜く感じに。

〔瑟〕 上部王は思いきり高低差をつける。必の筆順に留意し、右の王から左払いへ。必を横広につくり、安定した形に。

〔吹〕 偏は点に大小の変化をつけ、旁は下へ行くに従って太く、なめらかなカーブで。全体に小さく引き締めて。

〔笙〕 上部は幅広く、下部は狭く縦長にまとめる。筆脈を切らさないように配慮して書く。

原帖

〔設席鼓瑟吹笙〕席を設け、瑟を鼓し笙を吹く。

7月号　　中 字 課 題（漢字半紙部）　　佐々木彩苑 書

※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

読み―風は禅堂に起こって松韻微なり

意味―風が寺に吹いてかすかに近くの松を鳴らす音がする。

◎19頁に部分解説があります。

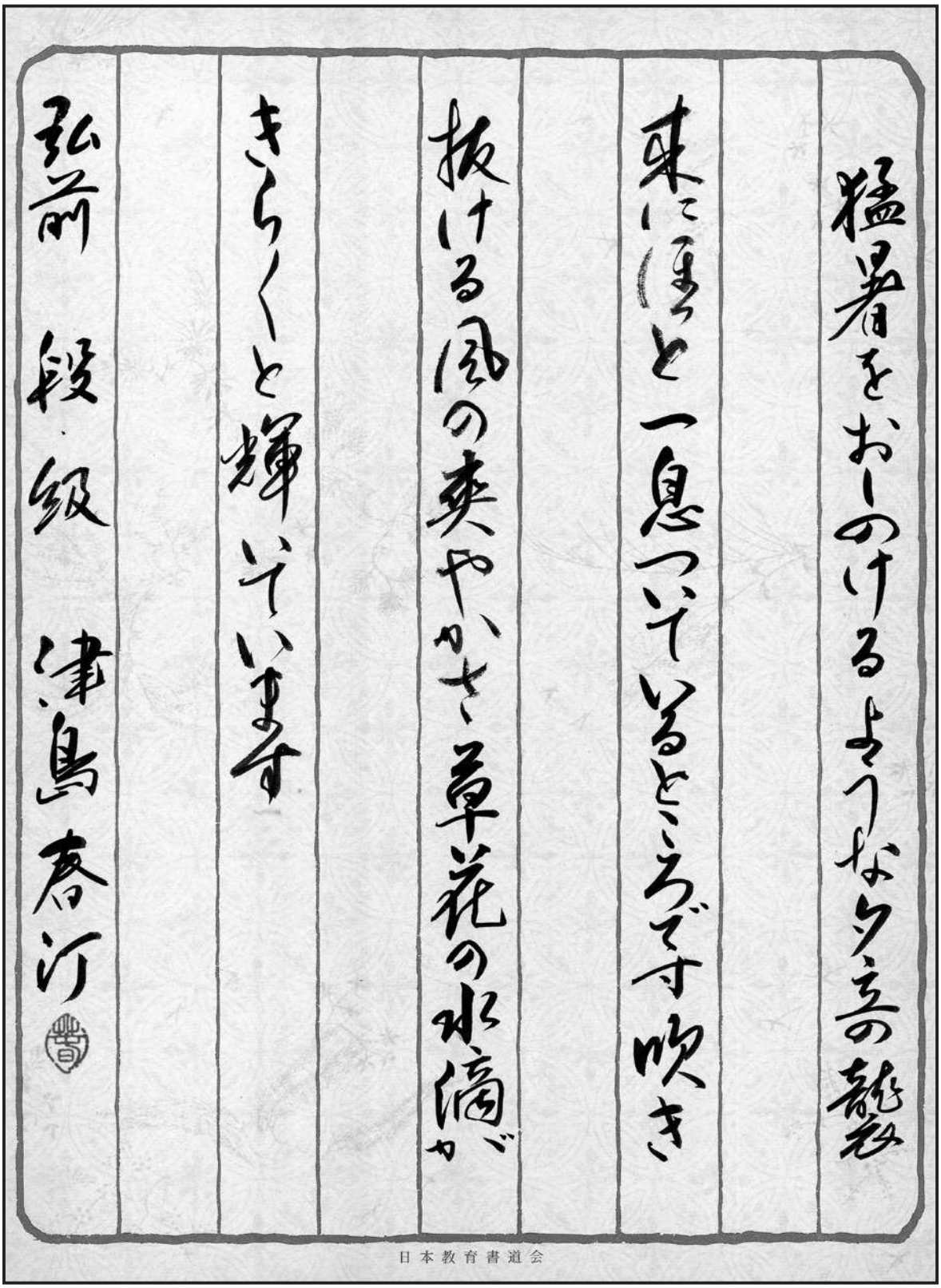
使用筆（天開）・使用紙（中字用半紙）・使用墨（書芸呉竹〈固型〉）

※弘前の部分には支部名を書く

７月号　調和体（漢字かな交じり文）課題　津島春汀書

※出品段級位（調和体部 新級～八段）

◎19頁に部分解説があります。



使用筆（からまつ）・使用紙（調和体用紙）・使用墨（書芸呉竹〈固型〉）

読み―◎猛暑をおしのけるような夕立の襲　来にほっと一◎息ついているところです吹き
抜ける風の爽やかさ草◎花の水滴が　きら〳〵と輝いています

（◎印墨つぎ）

※弘前の部分には支部名を書く

漢字条幅漢詩課題

漢字条幅部
※出品段級位（新級～八段）

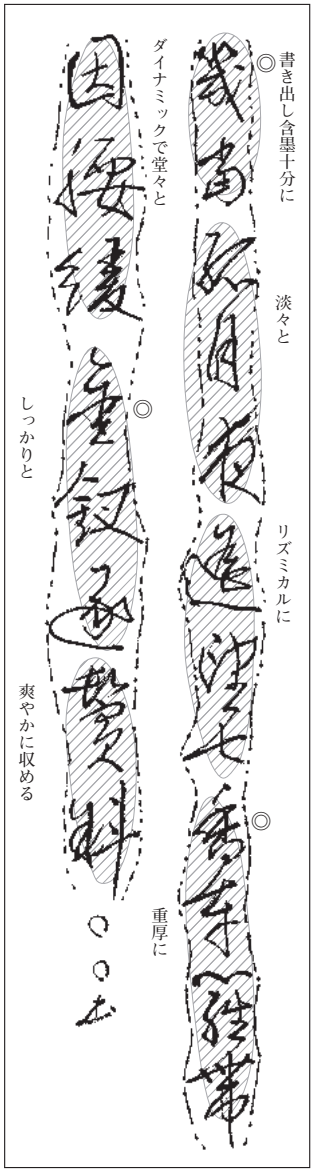
紙も大切な資源ですからエコの面からも無駄にしないように、効率よく学習する方法を考えなければなりません。ただ闇雲に枚数を重ねず〝目習い〟から始めて下さい。手本を眺めてその全体像を把握することが大切です。

がむしゃらに筆を進めていると、字を覚えてしまいますので、つい筆が走って、形や構成を見落としたり、大きな字になったりします。できれば1枚書く毎に、前のものと比べたり、壁に吊ってみるなどして、うまくいかなかったところをじっくり考察してみて下さい。

漠然と模倣を繰り返さず、字間や行間・文字群・大小など、骨法書に示されている要点をしっかりと理解してから新しい紙に向かって下さい。ちょっと視点を変えてみると、何か得るものがあるはずです。

『個々の文字の書表現については、書き易いものと、そうでないものがあるのは無理からぬものと思いますが、書き易いものでも、他とダブらせてはいけないことで、1行目の**夜・遙**、2行目の**釵・逐**の終画が同一方向にならぬよう留意して頂きたいと思います。』

（『　』内は岡田契雪先生より）



使用筆（白神）・使用紙（漢字条幅用紙半切・梅花箋）・使用墨（頂煙翰墨自在〈固型〉）

岡田契雪先生書

半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

◎〔幾當孤月夜　遙望七香車　羅帶因腰緩　◎金釵逐鬢斜〕羅愛愛　（◎印は墨つぎ）

読み―幾たびか孤月の夜に当たり、遥に望む七香車。羅帯腰に因りて緩く、金釵鬢を逐いて斜めなり。

意味―なんどか月だけが輝く夜に、遥かに七香車を眺めたもの。羅の帯は腰が細くなってゆるみ、金の釵は鬢の毛に従って傾く。

※七香車…多くの香料を塗り多くの香木で作った車。それに彼が乗っているのである。

注　意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

漢字条幅臨書課題

漢字条幅部
※出品段級位（新級～八段）

◆蜀素帖（米芾）

「ウォーキング。」1年間に行った運動のダントツ1位だそうです。書友の皆さんから、あぁそれなら毎日やってるよ！という胸を張った声が聞こえてきそうです。手軽にできることもあって昨今の健康ブームに乗り、散歩などを含めたウォーキング人口は、4,000万人超といわれます。

私の家の周りでも特に早朝や夕方、格好の良いジャージ姿で颯爽と、あるいは初心者らしくダラダラと重い足取りを引きずり歩くのをよく見かけます。最も身近な運動のウォーキングは、多くの健康効果（生活習慣病・肥満・老化・ストレス解消など）が期待できますが、〝ダイエット〟のためにする人も多いとか。

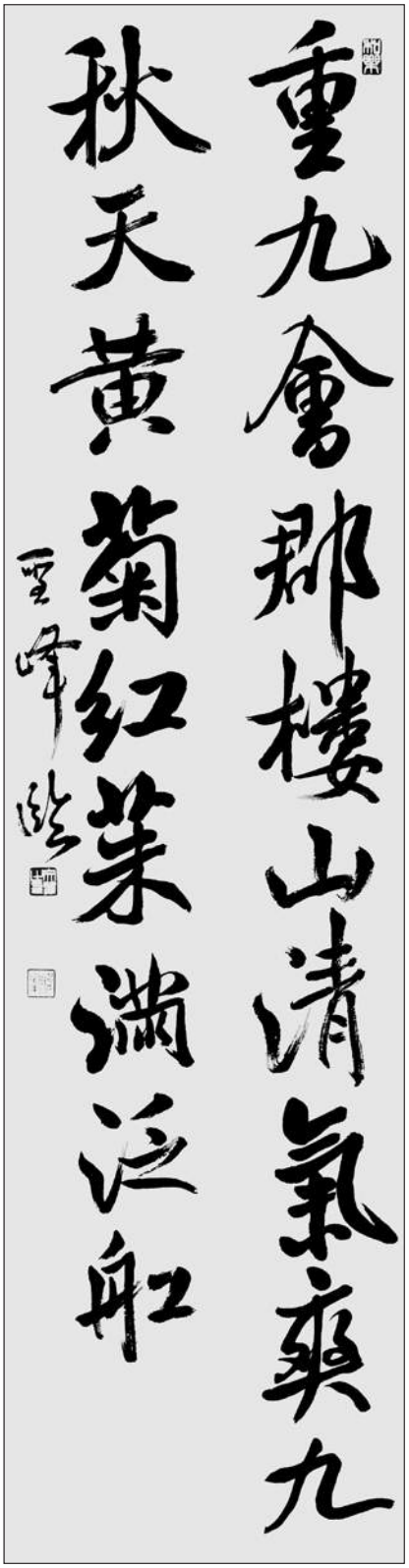
正しい歩き方は①視線は真っ直ぐ前に向ける。②なるべく膝を曲げない ③かかとから着地し、つま先で蹴り出す ④顎を引いて背筋を伸ばす。⑤腕は90度に曲げ、リズムよく振る ⑥歩幅はできるだけ広く。これに加え時速5・4km位の速歩で歩くのが一番消費カロリーが上がるそうです。健康なからだ作りをし、爽快な気分で筆を持つと当然のことのように美しい作品が書ける。自然に数学のような公式ができてしまいました。

課題、重～樓は今月から始まる詩の題です。

七夕の号ですので半切挑戦に足踏みをしている書友は、どうぞ一歩前へ進んで下さい。

樓＝楊樓樓

對馬聖峰臨



半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

〔◎重九會郡樓　山清氣爽九秋天　黃菊◎紅茱滿泛船〕

（◎印は墨つぎ）　使用筆（神技北斗）・使用紙（漢字条幅用紙半切・華心箋）・使用墨（黒耀（固型））

読み―重九に郡楼に会す。山清く気は爽やかに九秋の天、黄菊紅茱泛船に満つ。

意味―重九に郡楼に会す。山はすがすがしく秋の空は気分もさわやか、黄色の菊と赤い茱萸は浮かべた船にいっぱい。

注　意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

漢字条幅初等課題
漢字条幅一行課題

今年も又、7月9日・10日と「日本教育書道会特別研修会」が開かれます。

各書道展へ出品のための2×8尺長尺ものから毎月の課題全般の日ごろ悩んでいる部分の解消、八段位受験のための研修も受けられます。昨年も書きましたが、やはり一年の中でも楽しみな研修会です。

暑い・あつい季節がやって来ますが、今月号は「条幅おすすめ月間」です。この機会に取り組んで頂けたら嬉しいです。

さて今月号の墨継ぎは「葉」です。

〔湖〕 ・「氵」は太目に「古」の一画目も重く。偏と旁の高さを変えて。

漢字条幅部
※出品段級位（新級～準三段）
※出品段級位（新級～準五段）

〔聲〕 ・「声」の一画目は太く始まり、3画目はバネをきかせて細く。「耳」は右寄りにつくる。

〔蓮〕 ・山場です。カスレも出して、運筆にスピードの変化を。

〔葉〕 ・墨継ぎです。密度濃くて、大きさの順番は2番目かな。

〔雨〕 ・最後の字です、安定すれば佳!!

使用筆（初等・心月　一行・翔龍）・使用紙（初等・四半切華心箋　一行・半切華心箋）・使用墨（黒耀〈固型〉）

佐々木 彩苑 書

〔◎湖聲蓮葉雨◎〕帳 籍

読み―湖声蓮葉の雨　意味―湖に聞こえる声は蓮の葉に降る雨の音。

（◎印は墨つぎ）

注 意
漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

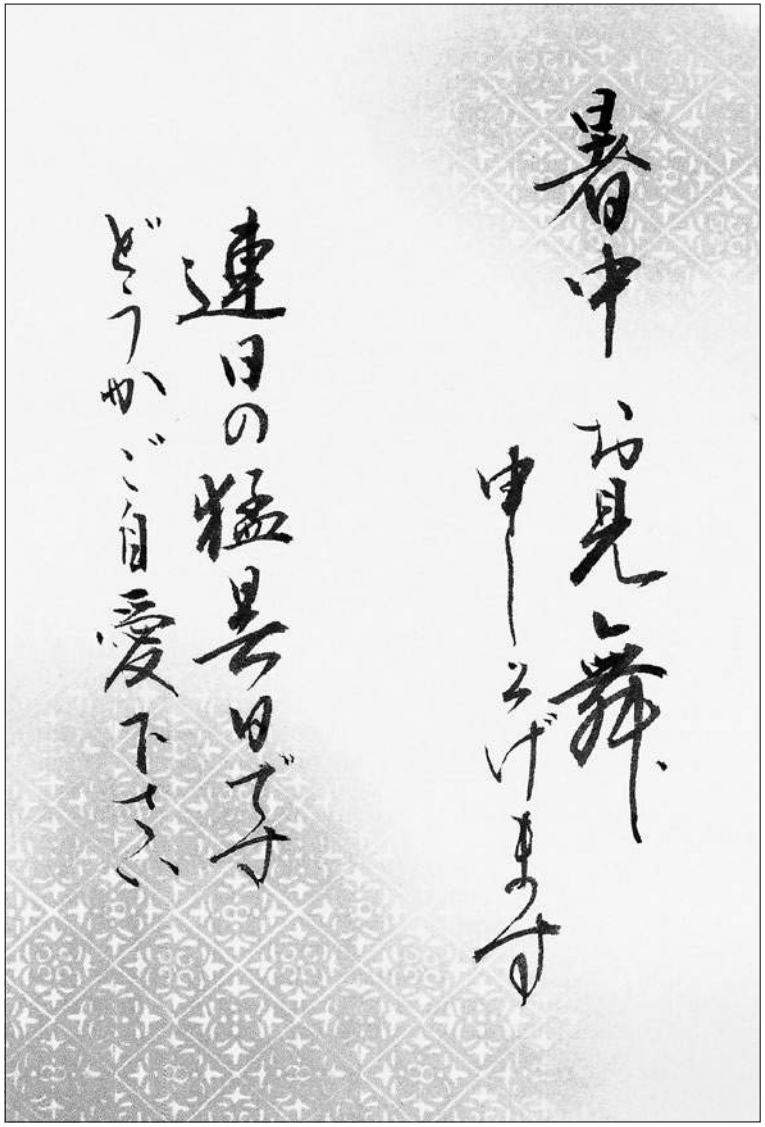
初等…四半切（約68×約17.5センチ）
一行…半　切（約136×約35センチ）

一行課題原寸大手本500円で販売しております。

7月号　実用課題

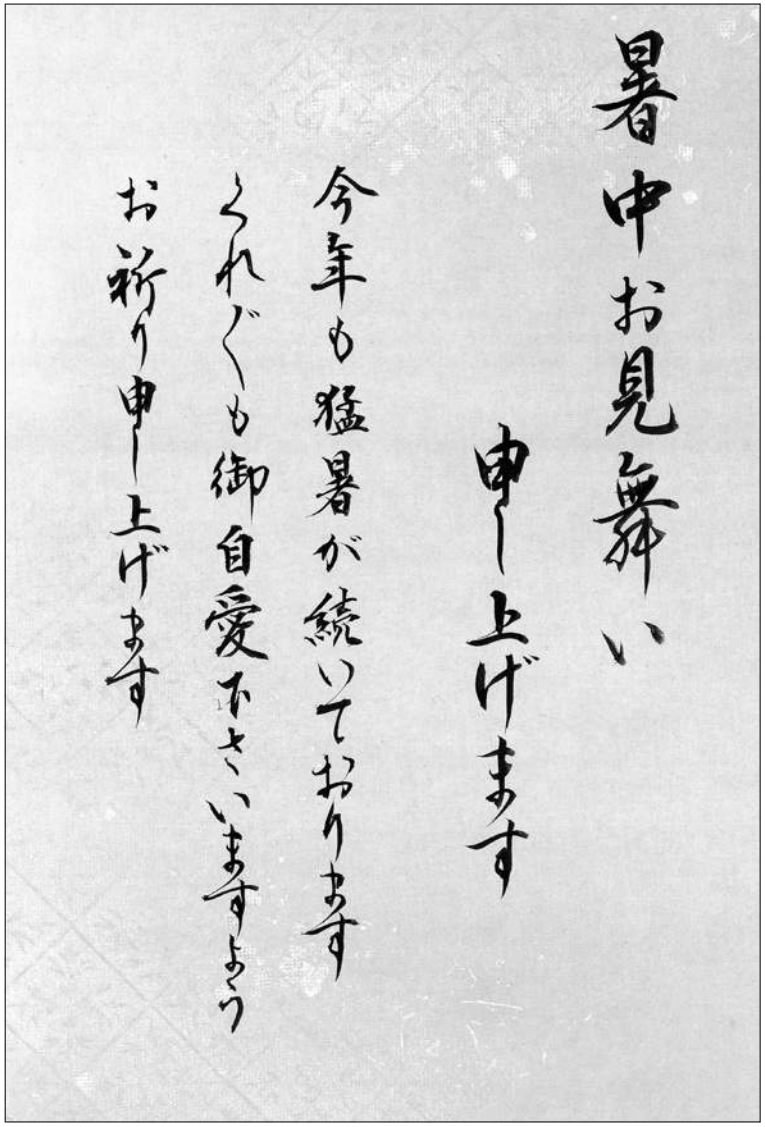
※今月号は出品できません。

暑中お見舞申し上げます　連日の猛暑日です　どうかご自愛下さい



三浦芳汀書

暑中お見舞い申し上げます　今年も猛暑が続いております　くれぐれも御自愛下さいますようお祈り申し上げます

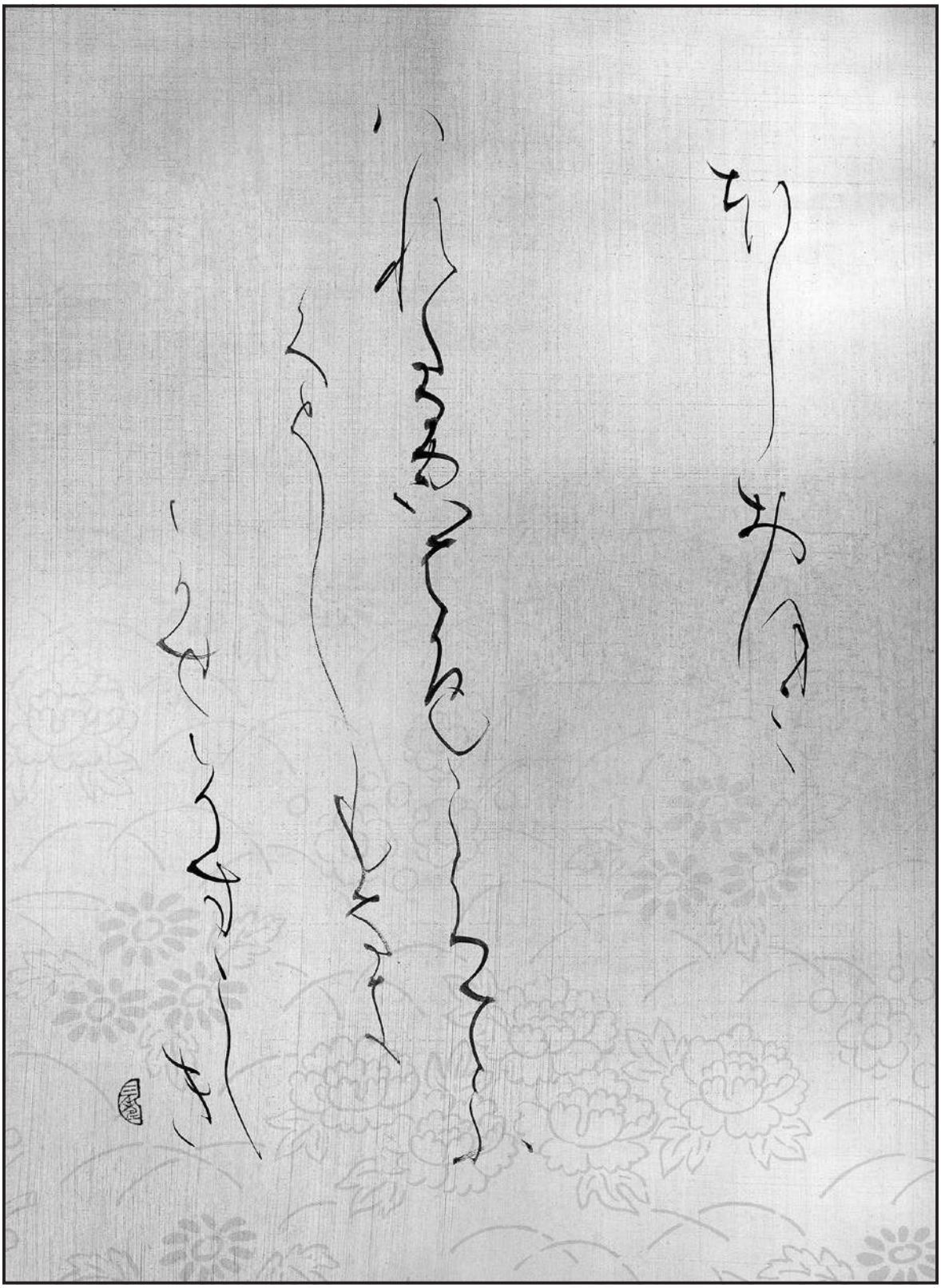


菅野華翠書

7月号　かな課題(かな半紙部)　湯川三壽先生書

《短歌課題》　※出品段級位（かな半紙部 新級～八段）

◎本しお保三八れ多る空者色こくてふくとしもな支可せ曽すゝしき（◎は墨つぎ）◎



使用筆（南風）・使用紙（かな用料紙）・使用墨（天衣無縫〈固型〉）

※19ページに解説があります。

読み―星多み晴れたる空は色濃くて吹くとしもなき風ぞ涼しき（藤原為子）

意味―星がたくさん出ているので、晴れている空は濃紺の色が印象的に感じられ、吹くともなく吹く風がまことに涼しい。

注意→支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

かな条幅課題

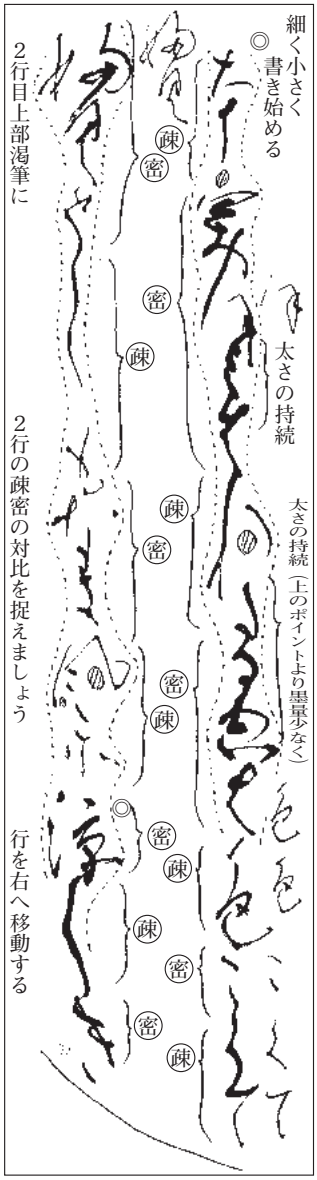
かな条幅部
※出品段級位（新級～八段）

連線は、かな書きの流動美をつくることで、のびやかさを出し、数文字を合わせて塊とし、流れにリズムをつけ、アクセントをもたらします。簡略化されたかなをより美しく多様な表現を可能にする連線の技法を勉強してほしいと思います。

書は造形芸術を兼ねそなえた一過性であると言われます。一度書いた上を二度書くということは許されません。一気に筆が運ばれて成立する芸術で、ぬり重ねたり、けずり取ったりということは出来ません。だから一つの線が命であり、線をきたえることが、その人の持ち味を生かすことになります。

『今月は、2行の対比に注目して書いてまいりましょう。字間の疎密、線の太細、文字幅の広狭を捉えて下さい。特に2行目を書く時は、1行目を視野の中に入れながら、幅の広い字を横に並べないように、字幅の相反するところを表現して行きましょう。』

（『　』内は湯川三壽先生より）



使用筆（雅）・使用紙（かな条幅用紙半切・桂風）・使用墨（天衣無縫〈固型〉）

湯川三壽先生書

半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

◎〔本四お保三者れ多る空者色こくて婦具としもな支風所涼しき〕◎

（◎印は墨つぎ）

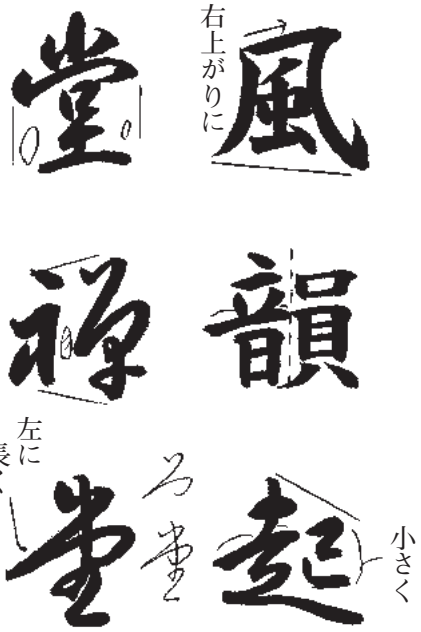
読み―星多み晴れたる空は色濃くて吹くとしもなき風ぞ涼しき（藤原為子）

意味―星がたくさん出ているので、晴れている空は濃紺の色が印象的に感じられ、吹くともなく吹く風がまことに涼しい。

注　意

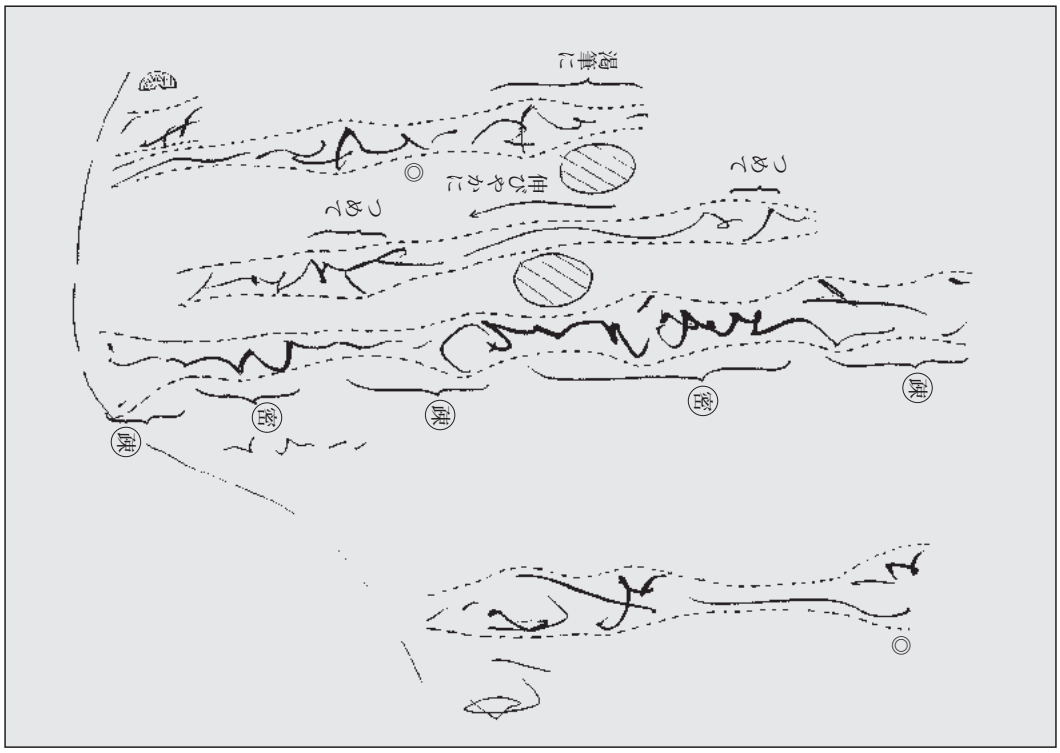
かな半紙部門と段級位は異なりますのでかな条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

中字課題解説



調和体課題解説

かな半紙課題解説



（◎は中心線）